

## 調査研究に関する中間報告書

<p>調査研究課題</p>	<p>市場流通品の生鮮魚における粘液胞子虫類の実態調査と効率的な検出法の検討</p>
<p>調査研究の目的</p>	<p>近年、刺身などを喫食し、数時間で一過性の嘔吐と下痢を発症する粘液胞子虫類の事例が全国的に発生している。食中毒の病因物質として <i>Kudoa septempunctata</i> が挙げられるが、他の一部の <i>Kudoa</i> 属もヒトへの病原性を示すものがあると考えられている。</p> <p>また新たにカンパチ等に寄生する <i>Unicapsula seriolae</i> (以下 <i>U.seriolae</i>) が原因と疑われる有症苦情も増加してきており、生鮮魚中の寄生虫に起因すると思われる食中毒の検査件数も増加傾向にある。</p> <p>そこで、食中毒発生時に検便、喫食残品より効率的に検出できる新たな検査方法について検討を行い、食中毒発生時に迅速に病因物質の検出を行うことにより、感染拡大防止に寄与することを目的とする。</p>
<p>調査研究の進捗状況  <small>(これまでの成果や問題点等を含む。)</small></p>	<p>検出方法の検討については、平成 29 年度には健常人の糞便に <i>U.seriolae</i> の胞子を添加し、DNA 抽出を行う際にジルコニアビーズの使用の有無、抽出温度と時間の検討を行ったが、引き続き検体数を増やして現在検討中である。</p> <p>また、カンパチは海外から種苗として輸入される時点で <i>U.seriolae</i> に汚染されていると考えられているが、カンパチが県内の養殖段階において粘液胞子虫類に感染するリスクについては不明である。今年度新たに海水やカンパチに与えている餌、釣りの餌として使用されるゴカイ等の環形動物を含む環境由来からカンパチが <i>U.seriolae</i> に感染する要因の有無について調査を行う予定である。</p>
<p>備考</p>	